

## 経済産業大臣賞（優秀賞）

水と育む輪の中で永遠に

宮崎県

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

三年

三浦

世来

『水』というものは私達の生活に欠かせないものであり、最も基本的なものだと私は思う。水がなければ植物は育たず、また多くの産業も大きな打撃を受けるだろう。蛇口をひねるだけで水が出て、トイレに水が流れる。そんな日々を当たり前のように過ごしている私達。

だが、水が与えてくれるものは恩恵だけにはとどまらない。度重なる水災害。そして世界的にも大きな問題となつていくアフリカの水不足問題は、私達の生活を大きく一変させるものだと私は感じている。

三月二十二日。この日は国連が定めた「世界水の日」である。水がとても大切であること、きれいで安全な水を使えるようにすることの重要性について世界中の人々と一緒に考えるための日とされている。私はこの日、アフリカに住む子供達についての記事を多く見かけた。そのどれもが今の私の生活にはありうることのないものばかりで、大きな衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えている。アフリカで手に入る水は、茶色く多くの有害物質が混ざっており、その名も「命を奪う水」と呼ばれている。事実、年に三十万人以上の人々が命を落とす悲惨な現状が存在しているようだ。そんな人々にとって唯一頼りとなるのが子供達だという。彼らは、一日の大半を水汲みに追われて過ごしており、毎日水の重さに耐えながら歩き続けている。また、多くの人が水を求め、争いが絶えないという。水が十分に手に入らないうえに、命まで奪われる可能性が高い地域での生活は、一刻一刻が想像を絶するものばかりだろう。

そんな中、私の心にある言葉が刻まれた。

「水は紛争の種だけではなく、協力のきっかけにもなりえます。」この言葉は国連事務総長であるアントニオ・グテーレス氏が唱えたものだ。これを聞いた時、私は今の世界の現状を変えようと努力している人達を思い浮かべていた。なぜなら、以前この日に関連して見たサ

イトに「アフリカの水問題を解決するには、アフリカの技術だけでは難しい。でも、他の国の力を借りると解決に格段に近づく。」そう書かれていたからだ。水をきっかけに、世界中の人々が手と手を取り合い協力していく。私は驚きと共に自分もそういう人でありたいと心の底から思うようになった。

そう考えると、今の日本は格段に恵まれていると感じる。その要因としてよく言われているのが「ダム」である。私の父の前職は、ダムが通常に運行しているか整備することだった。そのため、台風や洪水などが発生すると、どんなに遅い時間でも逐一確認しに行っていた。そんなある日、私は父に誘われ石河内ダムを見学に行った。まだ幼くダムが存在する意味も知らなかった私にとって、その場所は新たな発見の連続だった。ダムには多くの水が貯まっており、一つ一つの設備が壮大なものだった。そんな中、私の頭に特に印象に残っているものがある。それは、ダムに内設されている小丸川発電所についてだ。ここでは揚水発電というものが利用されていた。揚水発電とは一度発電に使用した水を繰り返し使用するというものだ。今でも思い返すと感心するばかりだが、これもまた私達の生活の中では知り得ることはいのちだろう。

『水』のもつ可能性は、どこまでも無限大だ。常に私達に寄り添い支え、何かを繋げるきっかけとなってくれる。今ある水に感謝する、これが未来を生きていく私達に必要なことなのだ。私は思う。生活するうえで気づかない間に基になつてくれる水は、それはそれは偉大だ。水に感謝することで、これから先生きていく人達に新たな可能性を届けることができる。水と育む輪の中で沢山の人が笑顔で過ごせるように。それが永遠に続くように。